



「てんやく絵本ふれあい文庫」30年の取り組み
 つてんやく絵本のこと、そして、図書館に望むこと

てんやく絵本ふれあい文庫
 代表 岩田 美津子

国立国会図書館は毎年、日本図書館協会と共催で障害者サービス担当職員向け講座を開催しています。平成26年度の講座の中で、講師としててんやく絵本ふれあい文庫代表の岩田美津子氏をお迎えしました。

2014年4月に30周年を迎えたてんやく絵本ふれあい文庫は、視覚障害者や視覚障害者のいる家族などに、ボランティアの方が製作したてんやく絵本の貸出しを行ってきました。てんやく絵本の所蔵は現在約9,000冊で、年間貸出数も約6,000冊にのぼっています。今回は、岩田氏にこの30年の取り組みと、この活動を行っている立場から図書館に伝えたいメッセージをお話いただきました。

※この講演は2014年11月18日に行われたものです。

(編集 関西館図書館協力課)

てんやく絵本とは

市販の絵本に塩ビシートの透明な点字シートを貼る、これがてんやく絵本の特徴です。本文を点訳した透明なシートを文字の部分に貼り、絵には透明なシートを絵の形に切って貼ります。絵の形に貼っただけでは絵の様子がわかりにくいもの、または絵の形に貼れないものについては説明文を書き添えます。てんやく絵本は、視覚障害者のために透明なシートを貼っていますが、見えない人専用の絵本ではありません。見える人が楽しんでいる市販の絵本をそのまま見えない人も楽しめる、言い換えれば、見える人と見えない人が一緒に楽しめる絵本がてんやく絵本なのです。

てんやく絵本の製作で心がけていることは?

私たちが大事にしていることは、作者の意図を壊さないということです。読み手によって感じるものが異なるため、作者の意図を伝えることは非常に難しいのです。ですから、見たものを言葉による説明に変える時は、そっけないくらいシンプルな表現にし、可能な限り、形が分

岩田 美津子 (いわた みつこ) 特定非営利活動法人てんやく絵本ふれあい文庫 代表

1984年4月に「点訳絵本の会 岩田文庫」を創設して以降、文庫活動を通じて30年にわたり、てんやく絵本の製作・貸出しなどを続ける。

著書に『点訳絵本の作り方』(増補改訂第3版 せせらぎ出版、2005年)、『見えないお母さん絵本を読む』(せせらぎ出版、1992年)、『岩田美津子の絵本探検』(JULA出版局、1997年)など。また、1992年2月から2000年12月までJBS日本福祉放送において絵本番組「岩田美津子の絵本の玉手箱」を制作・放送。国際児童図書評議会「IBBY朝日国際児童図書普及賞」(1998年4月)などを受賞。